

---

# あくまでも黒猫

カツラギ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あくまでも黒猫

### 【Nコード】

N6905F

### 【作者名】

カツラギ

### 【あらすじ】

悪魔な黒猫に取っ付かれた小市民の話。

「シトリ、どれがいいと思う？」

なあ？

僕の声に、パーカーのフード部分で丸まっていた黒猫が、面倒臭そうにのそりと起き出してきた。

爪を立てず器用に僕の肩口の上ってきた黒猫は、僕の前でおばちゃんマジシャンのように数枚の紙を広げているのを見ると、猫とは思えないような表情で「またか」と言わんばかりに僕の顔を見て投げやりに僕の頬にフィンと肉球でネコパンチ。

さすがに、猫にそんな表情されるとは思わなかった。

最近、出費が多くて黒猫に頼るのも今月2回目な訳だが、確かに普通に働いている人には申し訳ない。

ああ、僕って駄目人間。

ズズーンと凹む。

なあ

自己嫌悪の泥沼に嵌りこんでいた僕を黒猫が促すように鳴いた。

そして肩に乗っている脚でフミフミフミと三度足踏み、僕はおばちゃんの手元右から3番目を引く。

なあ

フミフミフミフミフミ。

5枚目を引く。

僕が2枚引き終わると、黒猫はもう一声「うにゃ」と鳴いて、仕事終えたような達成感を滲ませながら、またパーカーのフードにけだるそうに戻っていった。

どうやら当りはこれだけらしい。

「2枚でいいのかいね？」

おばちゃんの声。

「うん、こんだけいい」

僕は応え、おばちゃんに五百円玉を渡し、お釣りの百円で銀色のかぶせを削った。

これはわりとありがちなスクラッチくじで、五つの枠を削って王冠マークが出れば賞金。

ひとつで五百円、二つで千円、三つで5千円、四つで5万円、五つで10万円だ。

一つ目、「ハズレ」の文字。

二つ目、ありがちなデザインの王冠が見えた。

三つ目、王冠。

四つ目、「ハズレ」。

ラスト！！ 王冠！！ 五千円ゲット。

二枚目。

ハズレ、王冠、王冠、王冠！？ 王冠！！ 五万キター！！

「よっしゃああ！！ 五万五千円ゲットー！！」

「はいはい、おめでとー。 お兄ちゃんすごいね」

実は凄いの猫ですが。

そんなコトを言ってもしょうがないので無言で現金を貰う。

「お前にも良いもん食わしてやるからなあ！！」

僕の言葉に黒猫が興味を引かれたように一声「なあ」と鳴いた。

シトリ

シユトリ、ビトリとも。

魔界の王子とも公子とも言われ、66とも言われる軍団を支配する。

ソロモン72霊の中に含まれ、有翼の豹、または美男子として現れる。

男女の間の感情を操り、隠された秘密を暴きたてる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6905f/>

---

あくまでも黒猫

2010年10月13日14時13分発行